

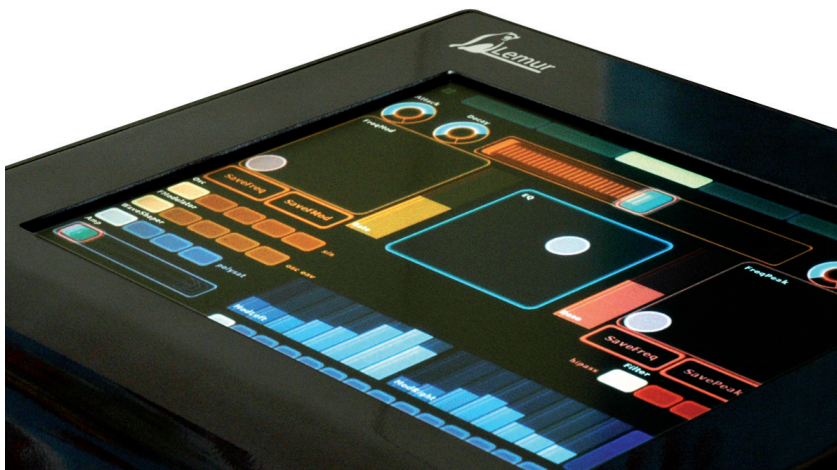


Lemur
Quickstart

LEMURをお求めいただきありがとうございます

あなたの新しいツールとして、Lemurに慣れ親しんでいただくためにこのガイドをご活用下さい。
取り扱いに慣れてもっと深くLemurのことを知りたくなった場合は、ユーザーマニュアルをご覧ください。

1 LEMURを接続する



Lemurは一般的なMIDIコントローラーの1000倍の通信速度と4倍の解像度で通信を行います。そのため、本体の背面には一般の5ピンのMIDIコネクタの代わりに、Ethernetポートが用意されています。実際に、Lemurはネットワークデバイスとしてアドレスを持ち、LAN環境の中で使用することができます。ネットワークの設定はごく簡単なものです。一番シンプルな方法は、LemurをEthernetのクロスケーブルで直接コンピュータと接続するものです。あるいは、ハブやルーターを使用したり、LAN環境の中に統合して使用したい場合は、インストールCD内のPDFマニュアル「Network Configuration Guide」を参照してください。また、Lemurの使用時にはコンピュータのファイヤーウォール機能を無効にすることをお勧めします。詳細はネットワーク関連の書類を参照してください。準備が完了したらLemurの電源を入れてください。

初めての起動時には黄色いキツネザルのイラストが表示されます。ここにプロジェクトを読み込むことにより、コントローラーとして使用できるようになります。プロジェクトとは、Lemurのインターフェイスの仕様を記述した電子ファイルのことを指します。プロジェクトはPC上で編集することができ、Lemurの内部ストレージへ移すとともにハードディスクの好きな場所に保管しておくことができます。とりあえずお試しいただくために、Lemurにはあらかじめいくつかのサンプルプロジェクトが用意されています。そのうちの一つを読み込んでみましょう。

Lemur本体にある左から2番目のボタンを押してください。これにより **(Browser)** パネルが開きます。既に本体にプロジェクトが読み込まれている場合は、**(Interface Browser)** を使用してプロジェクト内の各インターフェイスのページを切り替えることができます。あるいは別のプロジェクトを読み込む場合は、**(Project Browser)** に切り替えて目的のプロジェクトを選択してください。現時点ではまだ何もプロジェクトが読み込まれていないので、画面には **(Project Browser)** が表示されているはずですが、ブラウザ上にはアイコンが表示され、Lemurのメモリに記録されている内容を見ることができます。ここでは「**QuickStart**」フォルダのアイコンを開いてみましょう。フォルダのアイコンをダブルタップ（ダブルクリックの要領で画面を2回タップ）するか、タップして選択状態にしてから「**Open**」ボタンをタップしてください。

「**QuickStart**」フォルダ内には、MIDIプロジェクトが（正確には「**MIDIProject**」という名称で）用意されています。それを開くと、Lemurの画面にインターフェイスが読み込まれます。

② MIDIプロジェクトを使用する

まずはじめに、コンピュータ上でアプリケーション間のMIDIデータ通信ができるように、**バーチャルMIDIケーブル**を設定します。Mac上ではJazzDaemon (Jazzデーモン) が自動的にMIDI入力とMIDI出力を8つずつ用意しますので、特に何もする必要はありません。これらのポートは**Daemon Output**とDaemon Inputという名称に設定されています。Windows上では、**MIDI Yoke**や**Maple Virtual MIDI Cable**といったサードパーティ製のアプリケーションをインストールする必要があります。バーチャルMIDIケーブルについての詳細は、ユーザーマニュアルを参照してください。

製品に同梱されているCDには、Lemurを使用するためにコンピュータへインストールする必要のあるいくつかのソフトウェアが収録されています。Windowsの場合はインストーラを起動して、Macの場合はアプリケーションファイルを「アプリケーション」フォルダへドラッグコピーすることにより、アプリケーションをインストールしてください。ここでは、「**JazzDaemon**」アプリケーションを使用します。これは、**Lemurの接続先としてMIDIポートを設定するコンピュータ上で、常にバックグラウンドで起動させておく必要があります**。起動すると、Windowsの場合はタスクトレイに、Macの場合はメニューバーの右側にアイコンが表示されます。起動を確認したらLemurに戻って、プロジェクトをMIDIポートに接続します。Lemur本体の一番左のボタンを押してください。Settingsパネルが開き、さまざまな設定を行うことができます。画面の下部には設定項目の種類を切り替えるための4つのボタンが並んでいます。ここではMIDIの接続先を設定しますので、3番目のボタンをタップします。



インターフェイス内の各オブジェクトは、ネットワーク上のコンピュータと、8つまでのMIDI入力/出力のペアとしてマッピングすることができるため、(MIDI Target) ページには16個 (8つの入力と8つの出力) のポートが選択できるようになっています。ここでは、1つのポートからMIDI信号を送信できるように設定します。初期設定ではLemurの**Output 0**からMIDI信号が送信されるように設定されていますので、呼応するボタンをタップして実際の送信先を選択してください。

タップすると、ネットワーク上のJazzDaemonが起動しているコンピュータの一覧が表示されます。これらのコンピュータにはLemurからMIDIを受信できるようにMIDIポートが用意されています。

Select MIDI Target for "Lemur Out 0"

▼ pcport (169.254.0.3:8001)

- LoopBe Internal MIDI
- Maple Midi Out: Port 1
- Maple Midi Out: Port 2
- Maple Midi Out: Port 3
- Maple Midi Out: Port 4
- MIDI Yoke NT: 1**
- MIDI Yoke NT: 2
- MIDI Yoke NT: 3
- MIDI Yoke NT: 4
- MIDI Yoke NT: 5
- MIDI Yoke NT: 6
- MIDI Yoke NT: 7

Cancel

Disconnect

Connect

Lemur v1.6 Beta

Build Dec 5 2006 13:09:15



Close

上図では、「pcport」と名付けられたコンピュータ上の「MIDI Yoke NT 1」というポートで、LemurのMIDI Output 0から送信されたMIDIメッセージを受信するように選択された様子を表しています。正しいポートを選択したら **(Connect)** ボタンをタップしてください。これで接続が完了しました。コンピュータ上のMIDIアプリケーションで「MIDI Yoke NT 1」ポートを選択すると、そのアプリケーションはLemurからのMIDI信号を受信します。

MIDI Targets

	Inputs	Outputs
0	none	pcport : MIDI Yoke NT: 1
1	none	none
2	none	none
3	none	none
4	none	none
5	none	none
6	none	none
7	none	none

Lemur v1.6 Beta

Build Dec 5 2006 13:09:15



Save
Config

Close

ここで、**(Save Config) ボタン**をクリックすると、この (MIDI Targets) ページで設定した内容を保存することができます。これにより、Lemurを起動したときに自動的にこの接続設定が適用されるようになります。ここでこのパネルを閉じて、冒頭に開いたインターフェイスの画面に戻ってください。これですべての準備が完了しました。接続先のコンピュータでMIDIアプリケーションを起動し、「MIDI Yoke NT 1」ポートからMIDI入力を受信するように設定してください。次の解説に移る前に、思う存分Lemurでの操作を楽しんでください。

ここでは、どのようにしてLemurのMIDI設定が機能するかを見てきました。

Lemurでは8つの入力と8つの出力を、バーチャルケーブルによりネットワーク上の任意のコンピュータのMIDIポートへ接続することができます。また、ネットワーク上のコンピュータでLemurとのMIDI送受信を行うためには、それぞれのコンピュータでJazzDaemonサービスがバックグラウンドで起動している必要があります。

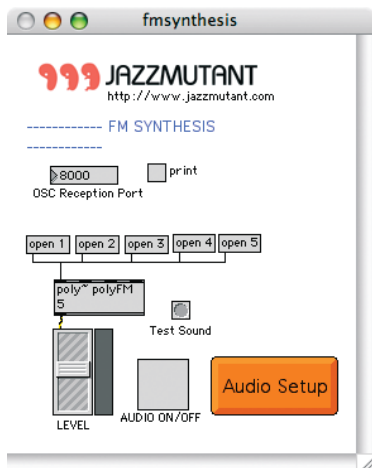
3 OSCプロジェクトを使用する

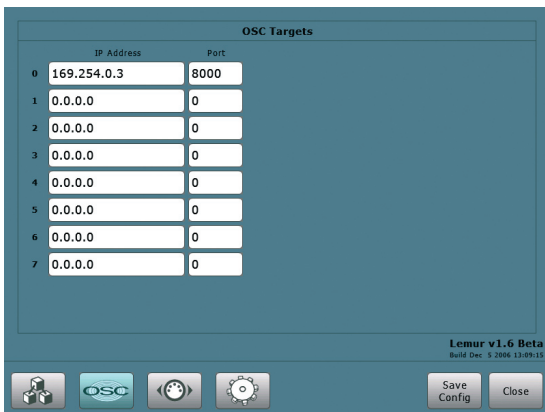
では、次にOSC対応のソフトウェアをコントロールするプロジェクトを試してみましょう。これは、Lemurの最もパワフルで興味深い機能です。

Lemurの**(Project Browser)**に戻って、**「QuickStart」**フォルダにある**「OSCProject」**というファイルを読み込んでください。インターフェイスが画面に表示されます。この時点で既にインターフェイス上のオブジェクトを触ることができますが、アプリケーション側でLemurのOSCメッセージを認識できるように設定するまでは、音を発生させたりすることはまだできません。

製品に同梱されているCDから、**QuickStart/OSCProject/Mac Standalone** または **QuickStart/OSCProject/PC Standalone**にある**「FMSynth」**というファイルを開いてください。これはMax/MSPのパッチから生成されたスタンドアロン・アプリケーションです。Max/MSPは、OSCでのコントロールにおいてはLemurと最も相性の良いソフトウェアのひとつです。このパッチはLemurのインターフェイスの各オブジェクトから発生したOSCメッセージを受信し、他のサウンドプロセス・モジュールへ送信します。

OSCはLemurネイティブのネットワークベースのプロトコルです。MIDIの場合と同様に、LemurではIPアドレスとポートにより識別された**8つまでのコンピュータへOSCメッセージを送信することができます**。ここでは、先ほど開いたFM SynthパッチとLemurを通信可能な状態になるように設定してみましょう。Lemur本体にて**(Settings) パネル**を開いて、**(OSC Targets) ボタン**をタップしてください。





1行目が「OSC Target 0」を表します。そこへ、FM Synthアプリケーションを起動しているコンピュータのIPアドレスを入力してください。(Port) 欄には「8000」を入力してください。これはこのパッチのOSC受信用のポート番号です。(Save Config) ボタンをタップすると設定内容が保存されます。

これで設定が完了しました。FM Synthパッチ上の (Audio On/Off) ボタンを調整して、Lemurのインターフェイス上のオブジェクトをいじってみましょう。音が鳴らない場合は、FM Synthパッチ上の (Audio Setup) ボタンをクリックしてコンピュータのサウンドカードの設定を確認してください。

ここでまた、OSCを使用した通信についてまとめてみましょう。

Lemurではインターフェイスから生成された生のOSCメッセージを、8つまで送信先として設定することができ、コンピュータ上のOSC対応アプリケーションをコントロールすることができます。

4 次のステップ

これでひとまずLemurをお使いいただけるようになりました。さらにLemurを使いこなしていただくために、下記を行っていただくことをお勧めします：

- 解説書類に付属するさまざまなサンプルプロジェクトを一通りご覧いただき、参考にしてください。
- Lemurのユーザーマニュアルをよくお読みの上、自分自身でインターフェイスを作成してみてください。
- もしあなたがDIY精神にあふれる人であれば、JazzEditorアプリケーションを使用してより細かく、より自由にインターフェイスをデザインすることができます。Lemurがいかに柔軟に目的に応じたコントローラーをデザインできるかを実感していただけることでしょう。

Enjoy!

